

NPO JCP NEWS

No. 27・2013. 5.31

- ・保存修復の現場から 世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存修復事業を通じて
- ・会員の声 「内戦によるシリアの文化遺産危機」
- ・新しい公共～NPO／NGOの時代～ NPOが運営する 「吉野作造記念館」
- ・JCP事務局通信
平成25年度事業予定／平成24年度被災文化財への対応について
- ・書籍紹介
『日本画・書跡の損傷－見方・調べ方』『までの力』『続・までの力』



破壊されたウマイヤドモスク



破壊される前のウマイヤドモスクのミナレット（シリア・アレッポ）



「炭鉱の語り部・山本作兵衛の世界」（2008年田川市石炭・歴史博物館、田川市美術館）展覧会カタログ表紙

世界記憶遺産

福岡県田川市所蔵「山本作兵衛コレクション」

保存修復事業を通じて

中村 麻里 株式会社タクト

明治25年に福岡県嘉麻郡笠松村鶴三緒（現・飯塚市）生まれた山本作兵衛は、1906年（明治39年）に山内炭坑（現・飯塚市）の炭鉱員となり、以後筑豊各地で働きながら、日記や手帳に炭鉱の記録を残しました。60代半ばを過ぎてから、自分の子孫に伝えようと炭鉱の様子を墨や水彩画で描いた作品は、1000点余に上ります。その内、日記・原稿などを含む697点が、2011年5月25日、国内初のユネスコの世界記憶遺産の登録を受けました。

これらの作品の多くは粗悪な画用紙等に描かれており、劣化の懸念があります。JCPでは、作品を所有している福岡県田川市から委託を受け、保存処置とデジタルデータ化の助言・指導を行っています。

作業は九州国立博物館の一室を借りて行い、国宝修理装こう師連盟の援助も受けました。

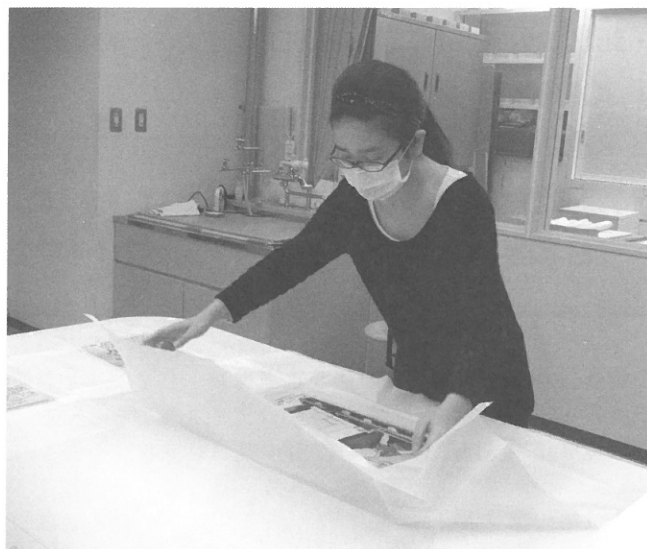
今回は、当機構副理事長 大林賢太郎氏の指導の下、実際に処置を手がけた(株)タクトの中村麻里さんにレポートを寄せていただきました。

平成24年7月の中旬に田川市から絵画作品およそ300点と日記帳等のノート類およそ20冊などが搬入され、3年弱の保存修復事業が始まった。

その日から保存計画は修正を繰り返し、その度に多くの方々のお力をお借りし、1年目を無事に終えようとしている。

山本作兵衛は名もない炭坑夫だった。ただ彼は幼少の頃から絵を描くことが好きだった。その彼が退職後、失われていくヤマに、それを知らない孫たちに、次代の子らにと炭坑の中の様子・地域の文化を残す為に描いた作品。彼の孫にとっての宝物は田川市の宝となり、2011年5月には日本初の世界記憶遺産となった。

作品の調査を進める過程で直面した困難のほとんどは、それが多くの人にとっての大切な物だったから起こったことであった。例えば、作品が折れたり破れた



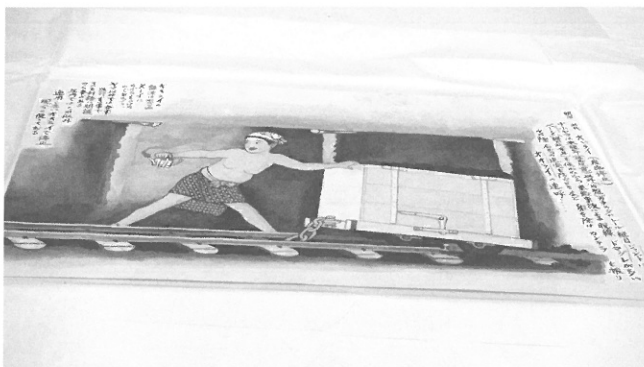
作業をする中村麻里さん



処置作業中の本紙

りすることを防ぐ目的で施された厚紙による裏打ちだったり、破れたページを補強する目的で貼られたテープだったり、誰かが大切だから・大事にしているからこそ行った処置だった。その想いをより安全で確実な方法で行い残すことが我々の仕事だった。

先に挙げた日記帳等のノート類に関して言えば、専門家の方のご指導を頂きメリットデメリットを考慮した結果、積極的な保存処置は現段階では行わず、環境と人の目によって劣化を遅らせる方法を選択した。いつかよりよい方法が生みだされた時に、再度検討し選



処置中の本紙2

扱することとなったのである。

山本作兵衛は想像を絶するほどの努力家で、それは彼の残した記録や作品を見れば明らかである。彼の残した記録資料の殆どは、頁ぎりぎりまで文字で埋め尽くされていた。中でも漢字の書き取りをしたノートは、頁ぎりぎりまで難解な漢字で埋め尽くされ、本人によるものと思われる表紙を修理した跡もあり、強い思い入れがあることを伺い知ることができた。それは田川市の方に伺った話では、中学校を退学した彼が、その

後独学で漢字の書き取りを行い勉強した記録だという。それ以外のノート類についても同様に、炭坑や日々の事柄について頁ぎりぎりまで詳細に記録している。文字だけでは、いずれ読んでもらえなくなったり、捨てられてしまったりすると考え、好きだった絵を描きその周辺に説明文を書き記したそう。そしてそれは、私が作品と接する時間を豊かにしてくれたように思う。彼の残した数々の言葉に夢中になるあまり、作業する手が止まったことも一度や二度ではなかった。

この作品と出会い、近くで作品に触れた約8ヶ月という時間は私にとって大変幸せな時間だった。山本作兵衛について、ヤマの歴史・文化や田川市について何一つ知らなかった私が、作品を通してその一端を知ることができ、更に知りたいと考えるようになったからである。

最後になりますが、休日や就業後の時間をこの作業の為に快く割いてくださった装こう師連盟九州支部の皆様へ心から感謝致します。

会員の声

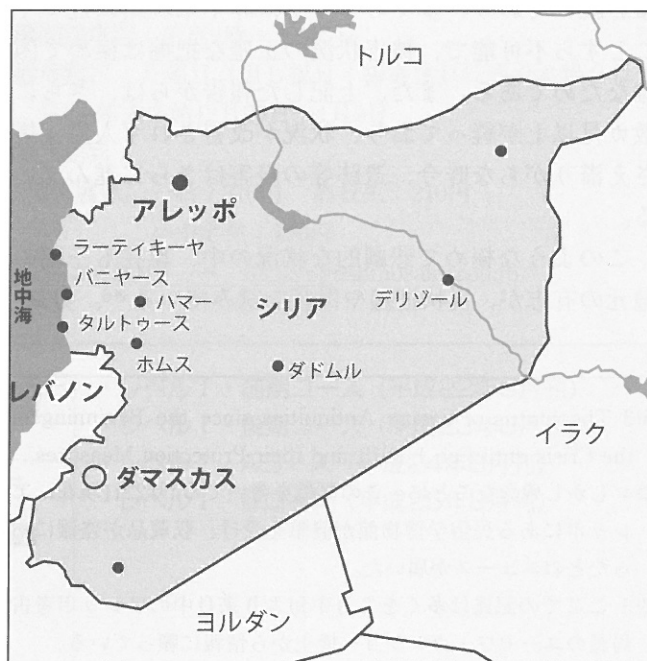
内戦によるシリアの文化遺産危機

山崎 やよい (NPO JCP 登録会員)

いわゆる「アラブの春」に呼応して、シリアにおいても2011年3月、南部の町ダラアで政府側と反政府側の間での衝突が起こった。これを契機に各地でデモが繰り返されることになったが、政府側はそれらを力で弾圧する対応に出、結果的にシリア全土が武力抗争の渦に巻き込まれることになった。

この革命勃発以来、2年以上が経過するが、この混乱状態に乗り考古学的遺跡や史跡の侵害は少なからず起こっており、その一部はyoutube やfacebookなどのウェブ上で公開された。しかし、これらの情報は、政府側と反政府側の対立のなかで、双方を非難するためのツールとして使用されることが多く、客観的に文化財危機を把握するには不十分なものであった。

このような中で、ユネスコ事務局長、イリーナ・ボコヴァは2012年3月20日付けで、シリアの文化遺産保護



を訴える声明を出した^{※1}。

また、この声明の後、Durham UniversityのEmma Cunliffeは、2012年5月段階でのシリアの文化遺産の被害状況をまとめた報告書を出している^{※2}。

さらに今年に入ってシリア考古総局は、2013年2月1

※1 http://www.unesco.org/new/en/media-services/single-view/news/director_general_of_unesco_appeals_for_protection_of_syrias_cultural_heritage/ (Accessed 13 April 2012)

※2 Damage to the Soul: Syria's Cultural Heritage in Conflict, 2012 May 16, Durham University and Global Heritage Fund.

日付けで、シリアの文化財の被害状況をまとめた報告を作成した※3。この中では、各地の博物館収藏品と遺跡の状況についての概要が報告されているが、前者に関しては、イラク戦争の際の教訓から、騒乱の初期の段階でほとんどの収藏品を安全な場所に移すという措置がとられており、一部の遺物を除き、この時点では被害は最小限に食い止められた模様であった※4。

遺跡に関しては※5、内戦状態に陥った後、治安レベルが低下するにつけ、著名なパルミラ、アバメア、エブラ、マリなどをはじめ様々なサイトでの侵害が進んでおり、特に盗掘が激しいようである。中でもエブラでは最近甚だしい被害が出ているとみられ、未発掘の場所のみならず、粘土板の「文書庫」周囲にさえも盗掘穴が開けられたとされている。

また、シリア北西部に位置する、Dead Citiesと呼ばれるビザンチン時代の遺跡群は、一部が近隣より逃げてきた避難民により仮の住居に転用され、若干の改変がおこなわれている。

これら遠隔地の遺跡のみならず、市街地にある文化遺産も大砲や迫撃砲の使用、あるいは空爆により、大きな被害を被っている。特に昨年10月に起こったオールド・スークをはじめとするアレッポ旧市街における火災は、モスクやキャラバン・サライに代表される歴史的建造物に致命的な被害をもたらした。しかし被害の範囲・規模などは未だに不明である。

この報告の中では、推量的な表現を何回も用いたが、これは、激しい戦闘がシリア各地で2013年4月現在もなお続いており、多くのサイトは昨年来現地に近づくことすら不可能で、被害状況の正確な把握は極めて困難なためである。また、上記した報告からは、さらに数カ月以上が経っており、状況が改善されず人道支援さえ滞りがちな昨今、遺跡等の侵害はさらに進んでいる。

このような極めて悲劇的な状況の中、現在も一部の地元の有志が、現状把握や保護を試みている※6。勿論、



エブラ遺跡



破壊されたウマイヤドモスクと兵士

彼らとて危険な区域には近づけないでいるものの、出来る限りの監視を試みている。彼らの努力に敬意を表するとともに、紛争の早期解決を心より望むものである。

*この報告を書き終えた後、アレッポのウマイヤドモスクのミナレット（11世紀）が、砲撃により粉々に破壊されるという事件が起こった（2013年4月24日）。このミナレットはアレッポ城とならび、アレッポ市民の象徴的存在であり、単なる史跡破壊以上の精神的なダメージを人々にもたらしたことをここに付け加えたい。

※3 The Status of Syrian Antiquities since the Beginning of the Crisis until Feb 1, 2013, and their Protection Measures

※4 しかし残念なことに、この原稿を書いている4月22日現在、アレッポにある民俗学博物館が襲撃を受け、収藏品が盗難にあったとのニュースが届いた。

※5 ここでの記述は多くを3月中旬より来日中のアレッポ考古局長のユーセフ・カンジョ博士から情報に頼っている。

※6 例えば、ユーフラテス川中流域のシャーシュ・ハムダーン遺跡やその周辺での保護への動きは、youtubeにアップロードされている。このビデオを作成したのは、筆者も知っている人物であり、信頼できる筋とすることができる。
https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=0oonLSCjHlo

山崎やよいさんプロフィール

広島大学大学院文学研究科博士課程後期考古学専攻単位習得退学

1989年よりシリア在住、シリア・アラブ共和国アレッポ博物館における考古学、博物館関係の研究活動、アレッポ博物館主導によるテル・アル＝アバル発掘調査、シリア・日本合同遺跡修復事業「アインダーラ神殿遺跡修復」、ヨーロッパ・シリア合同発掘調査「テル・ベイダル遺跡の発掘調査」等のプロジェクトに参画すると共に、JICAシニアボランティア、および専門家として、主にシリア、ヨルダンの博物館事業や遺跡修復事業に携わる。

2011年帰国。

NPOが運営する 吉野作造記念館

宮城県大崎市に立地する吉野作造記念館は、平成14年度からNPO法人古川学人（ふるかわがくじん）※1が指定管理者として運営しています。吉野作造は周知の通り、民衆を政治の根本におく「民本主義」※2を標榜し、大正デモクラシーの中心となった人物です。同館はその精神を引き継ぎ、展示活動や各種講座を行っています。中でも平成23～24年度には、大崎市のNPOなどの民間団体や東北大学大学院農学研究科、大崎市が協働し、大崎の宝＝人（たからびと）プロジェクト「大崎未来塾」を開催し、大崎市もしくは近隣市町村の、高校生以上の男女（30歳未満）を対象に、思考・議論力、表現力の養成ワークショップ、自然との共生を重視したまちづくり提案を行うなど、若者の人材育成に力を入れています。

この記念館の学芸員 佐藤弘幸さんが、平成24年度の「陸前高田学校」に参加してくれました。このたびその参加報告が、同館の広報誌「吉野作造記念館だより」に掲載されました（写真）。

東北地方からは幕末の蘭学者・大槻玄沢、高野長英、明治期には博物学の鳥羽源蔵博士や宮沢賢治など、日本の近代化に大きく影響を与えた人物がたくさん輩出されています。世の移り変わりと共に忘れられがちなその足跡を、地元がしっかり引き継いでいるのです。

近代日本の基礎固めに多大な貢献をした人物像を、一度是非訪ねてみませんか。

※1 <http://www.yoshinosakuzou.jp/gakujin.htm>

※2 吉野作造は「政治とは国民全体の幸福を中心に考え

二〇二二年、吉野作造記念館に奉職した佐藤弘幸学芸員。昨年度、吉野作造記念館では新人職員研修の一環として、彼を次のような研修に派遣しました。その成果報告をここに記します。

NPO法人文化財保存支援機構（JCP）は、平成二〇年度から東京国立博物館と共催で「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を行っています。今回は、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県の陸前高田市立博物館にて開催された「陸前高田学校」に参加させて頂きました。今回は、同館の支援が目的でもありません。

陸前高田市立博物館は、津波の直撃によって当館勤務されていた職員の方六名のうち五名が亡くなり、残りの一が行方不明、全収蔵資料が海水で浸し一部が消失するという甚大な被害を受けました。現在、市内山間の小学校跡に避難し、職員の方々によって被災した資料を長期に渡って保管できる状態にする安定化処理と整理作業が行われています。初日は全壊し外壁のみとなった博物館跡地に、献花を行いました。

実習内容は、津波被災のように道具や施設がほとんど無い極限状況の中で、応急処置的な資料の保存を行う「臨場保存」と呼ばれる作業でした。これは恒久的、継続的な保存を目指す処置ではなく、それまでの緊急として、手元にある最小限の物品で資料の安定を保つための処置です。

八日間を通して、染織品、カビ対策、民具、貝類標本、表具、洋書など、それぞれの保存の専門家の先生方から講義を受け、直接ご指導を頂きました。大学で保存科学を専攻したわけではない素人の私には難しい所が多かったですが、記念館での業務にも参考となるものが非常に多い、極めて貴重な経験でした。

何より、奇跡的な状況の中で必死に資料の回収と安全を確保し、多忙にも関わらず私たちに快く迎え入れて指導してくださった陸前高田市立博物館の職員の方々は、心より感謝を捧げたいと思います。作業に取り組み職員の方々の背中ですが、現在の職を得た者としては最大の教訓でした。

JCP「陸前高田学校」
7月30日～8月6日

貝類標本の保存処置実習（NPO法人JCP提供）

『吉野作造記念館だより』より

るべきだ」として、民衆を政治の根本におく「民本主義」を主張しました。（吉野作造HPより）

吉野作造記念館概要

■所在地：宮城県大崎市古川福沼1-2-3

■電話番号：0229-23-7100

■FAX番号：0229-23-4979

■アクセス：古川駅から約1.5km。（徒歩かタクシー利用）

■開館時間：午前9時～午後5時

■休館日：月曜日（但し祝日・振替休日に当たる場合は翌日） 年末年始12月29日～1月3日

■入館料：

〔常設展示〕 一般；310円 高校生；210円

小中学生；100円

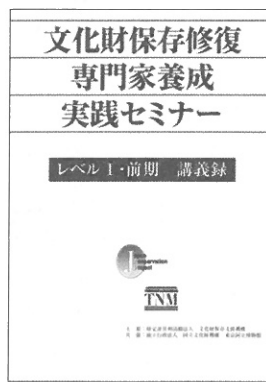
詳細は同館HP → <http://yoshinosakuzou.jp/>

文化財保存修復専門家養成実践セミナー 講義録のご案内

JCPでは、平成20年度から始まった「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」の講義録を毎年編集しています。現在平成22年度刊～24年度刊まで4冊発行されています。若干残部がありますので、頒布手数料3,000円でお分けすることができます。ご希望の方は、事務局までメール、ファックス、あるいはお電話にてお申し込み下さい。

講義録の詳しい内容は

http://www.jcpnpo.org/library/JCP_kankoubutsu.pdf を、ご参照ください。



- ・レベルⅠ・前期コース（平成22年3月刊）
- ・レベルⅠ・後期コース（平成23年3月刊）
- ・レベルⅠ・Aコース（平成24年3月刊）
- ・レベルⅠ・Bコース（平成25年3月刊）

■平成25年度事業予定

平成25年度が始まりました。

現在決定している25年度のスケジュールについてお知らせします。

【本 部】

6月1日(土)

平成25年度JCP定例総会(於;浅草観光文化センター)

7月20日(土)、21日(日)

文化財保存修復学会第35会大会支援

7月29日(月)～8月5日(月)

「陸前高田学校」※1開催(於;陸前高田市立博物館、岩手県立博物館 その他)

8月19日(月)～29日(木)

「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ・Aコース※2開催(於;東京国立博物館小講堂その他)

9月5日(木)～7日(土)

東アジア文化遺産保存国際シンポジウム支援

10月12日(土)～20日(日)

谷中芸工展「修復のお仕事展」参加(於;旧平櫛田中邸)

11月5日(火)～10日(日)

世界遺産スタディツアー～ベトナム～開催※3

12月

ニュースレター発行予定

2014年1月

シンポジウム開催予定

通年

陸前高田市立博物館 拓本軸装抜本修理

【関西支部】

通年

文化財ER(被災文化財修理事業)

京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターとの共催事業「文化財ER」では、下記の被災文化財を受け入れて処置を行っています。

- ・宮城県大崎市Y家ガラス乾板等保存処置(ガラス乾板600点、フィルム約175点、プリント約540点、アルバム1冊)
- ・岩手県大船渡市S家近世近代資料保存処置(水洗乾燥処置)500点以上
- ・岩手県南三陸町C家屏風応急処置作業(仙台東北大学内で作業)
- ・宮城県黒川郡大和町天皇寺襖下貼り文書保全処置(仙台東北大学内で作業)

府庁文書修理支援

【九州支部】

通年

田川市記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置支援

※1 セミナーレベル2「陸前高田学校」の受講は、レベル1修了生、あるいは東日本大震災被災区域在住在勤の文化財保存従事者に限られます。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

※2 セミナーレベル1の募集は近日中に開始します。

※3 世界遺産スタディツアーの募集は近日中に開始します。

■この他にもご要望にお答えして様々な企画を立てたいと思います。是非皆様の声をお聞かせください。■

■平成24年度 被災文化財への対応について

現在JCPでは、東日本大震災で被災した陸前高田市立博物館所蔵の拓本について、修復のお手伝いをしています。この拓本は同館の元館長 宗宮参次郎氏が、地域の石碑の拓本を自ら取って表装したものです。津波で夥しい塩害を被ったこれらの拓本に対し、平成23年12月～24年2月にかけて、JCPのボランティアが塩害除去と安定化処置を行いました。(NL No.25参照)

平成24年度、安定的な保存を期して抜本的な修理をすることとなり、陸前高田市からJCPが正式に委託を受けました。当初表装された経緯から元の表具を活かすことも提案されましたが、検討の結果本紙を取り外して新たに表装し直すことに決定しました。救われた拓本の全点数は400点以上に上りますが、市の優先順位に従って、平成24年度は77本の表装／修理を行いました。

この作業では、可逆性の尊重という理念に則り、保存性が信頼されている伝統的な和紙と糊を使用することを大前提としました。材料調達に当たり、下記の材料製造業者様、修復工房様に多大なご援助を頂きました。ここに記して深謝申し上げます。

- ・上窪 良二 様(吉野・美栖紙)
- ・(株)岡墨光堂 様(京都・国宝修理)
- ・(有)根本 様(東京・表装材料)
- ・長谷川和紙工房 長谷川 聡 様(岐阜・薄美濃紙)
- ・速水商店 様(京都・表装材料)
- ・福西 弘行 様(吉野・宇陀紙)
- ・(株)枡表 様(東京・表装製)
- ・(株)マルイ美術 様(東京・美術運送)

(アイウエオ順)

なお、24年度は、古糊を扱えるという条件の下、関東、関西の会員4工房に協力をお願いしました。

この修理は25年度も継続して行われます。今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

★JCPでは、現在でも被災文化財の救援のための寄附を受け付けています。お寄せいただいたご寄附は、東日本大震災関連事業の他、各地で頻発する災害に対応するため

に使わせていただきます。皆様の暖かいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

振込先：

みずほ銀行 根津支店

普通預金 1091862

特定非営利活動本陣 文化財保存支援機構

書・籍・紹・介

『日本画・書跡の損傷 -見方・調べ方』



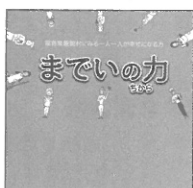
著者：東京文化財研究所／
国宝修理装こう師連盟
2013年3月25日発行
発行 独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所
発売所 オフィスHANS
〒150-0012東京都渋谷区広尾2-9-39
TEL：03-3400-9611
定価 1,800円＋税
109ページ（オールカラー）

本書は絵画や書跡などを文化財として取り扱う場合に必要とされる実務的知識を、修理現場で活躍している第一線の技術者と修復技術の研究者が取りまとめたもの。日本画・書跡の損傷と対処法を「構造体」「基底財の材質と技法」「外的要因」「過去の不適切な修理」に起因するものに分類し、さらに修理材料と周辺技術にまで言及し、網羅的に解説している。

カラー写真と図解を豊富にも盛り込んでおり、大変分かり易い内容となっている。大きさもA5版で、手元に置くには丁度良い。博物館美術館で働く人々や文化財修理を勉強している人にはお勧めの一書である。

ただし分かり易いだけに、巻頭でも述べられているように、個人が自分で判断すると思わぬ誤解を生じることがある。あくまで専門家との連携を考慮して利用していただきたい。

『ままでの力』『続・ままでの力』



協力 飯舘村
企画編集 「ままでい」特別編集チーム
2011年4月11日発行
発行 株式会社SAGA DESIGN SEEDS
〒960-1106 福島県福島市下鳥渡字扇田30-3
TEL：024-597-6800
定価 2,500円（税込み）
119ページ（オールカラー）



協力 飯舘村
企画編集 「ままでい」特別編集チーム
2012年8月15日発行
発行 株式会社SAGA DESIGN SEEDS
定価 2,500円（税込み）
119ページ（オールカラー）

東日本大震災の福島第一原発事故で、全村民避難を余儀なくされた村がいくつかある。福島県飯舘村はそのひとつである。地震の被害が少なかったにも関わらず、また原発に特に近かったわけでもないのに、風向きにより放射線量が高く、避難区域に指定されてしまった。村民は、今でも帰還の目処が立っていない。

『ままでの力』は、過疎といわれていた飯舘村が、合併に頼ることなく、公民上げて地元の力を総動員し、創意工

夫で村興しをした記録である。村長の主導により、経済効果よりも「ままでい」（地元の方言で、細やかな心遣いを意味する）の力でお年寄りを大切に、子供を皆で育て、土地の自然を護って桃源郷のような村を実現した。この事実は、過疎と言われている多くの市町村の希望にもなるはずだった。あの原発事故さえ起らなければ……。

『続・ままでの力』では、土地を離れた人々の、その後を追う。

村の生活文化を宝箱のように詰めたこの2冊は、その反動として『喪う』という感覚を否応なく突きつけてくる。頁を彩る原発事故前の風景があまりに美しいだけに、そして傍目にはその風景に何の瑕疵もないだけに、手が届かないということに痛覚を持つほどの「喪失感」を呼び起こされる。ひとつの土地を愛し、自分たちが「ままでい」に育てた生活の全て—文化—を放棄せざるを得ないというのはどうということだろうか？

「文化」あるいは「文化財」を保存していくということは、こうした喪失感に抗うことかもしれない。しかしその行為は、果たして希望を手繰り寄せる力があるのだろうか？

ここには「文化」という言葉も「文化財」という言葉も登場しない。しかし、人間社会の豊かさのために「文化財」を守ろうとしているのだとしたら、是非読んでほしい2冊である。（M.Y.）

ご入会ありがとうございました。

(平成25年5月31日現在入会者数)

■理事	8名	■維持会員	15名
■登録会員	167名	■一般会員	108名
■学生会員	57名		
■監事	1名		
■評議員	2名		
■賛助会員	28件		

株式会社 宇佐美松鶴堂

株式会社 宇佐美修徳堂

株式会社 岡墨光堂

株式会社 絵画保存研究所

株式会社 桂文化財修理工房

財団法人 元興寺文化財研究所

京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

国富株式会社 長崎営業所

株式会社 芸匠

株式会社 光影堂

一般社団法人 国宝修理装こう師連盟

株式会社 坂田墨珠堂

株式会社 修護

株式会社 修美

株式会社 松鶴堂

宗教法人 正法院

中部資材株式会社

株式会社 東都文化財保存研究所

日本通運株式会社 美術品事業部

株式会社 半田九清堂

長谷川 聡

百元 節

株式会社 フレンドトラベル

株式会社 文化財保存

山領絵画修復工房

他 個人5名

(アイウエオ順)

NPO JCPの活動に 参加してみませんか？

■登録会員：年会費 7,000円

文化財保存に関わる専門的スキルを持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。

登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。

■一般会員：年会費 5,000円

この法人の目的に賛同し、支援する個人。

■賛助会員：年会費 一口50,000円

この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

■学生会員：年会費 3,000円

大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。

会員特典 ・季刊情報誌の送付

・講演会/研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、下記のファックス、お電話、メールにて申し込み用紙をご請求下さい。お返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申し込みができます。

TEL. 03-3821-3264 FAX. 03-3821-3265

E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org

URL: www.jcpnpo.org

※現在JCPでは、東北地方その他の被災文化財救援募金を受け付けております。

ご連絡いただければ、振込み料無料の振込用紙をお送りいたします。

皆様の暖かいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※この他にも、随時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

・郵便振替 00120-4-10545 NPO JCP

・三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店

普通預金 3960340

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

理事 三輪嘉六

・みずほ銀行 根津支店

普通預金 1727893

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS

第27号

2013年5月31日発行

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

〒110-0008

台東区池之端4-14-8 ビューハイツ池之端102号

TEL: 03-3821-3264 FAX: 03-3821-3265

E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org

URL: www.jcpnpo.org

関西支部

京都造形芸術大学

日本庭園・歴史遺産研究センター内

TEL: 075-791-8519

〈理事〉

三輪 嘉六 (理事長)

大林 賢太郎 (副理事長) 西浦 忠輝 (副理事長)

増澤 文武 沢田 正昭 増田 勝彦

三浦 定俊 山領 まり

〈評議員〉

田邊 三郎助 荒木 伸介

〈本部事務局〉

八木 三香 (事務局長) 松本 洋子

〈関西支部事務局〉

伊達 仁美 (事務局長) 加藤 亜沙子

〈編集協力〉

嶋根 隆一 (伝世舎)